

水害

特集

「知る」「備える」



毎年、全国各地で大規模な水害が発生し、その度に、周辺地域の人々の命や財産がおびやかされ、被害を受けています。大東市も過去に大水害を経験しているように、災害が人ごとではないことを知り、水害への対策を進めましょう。

人ごとではないことを「知る」

平時



市役所の西を
流れる寝屋川

異常気象が各地で発生している中、今までの「当たり前」を疑う必要があるのかも？



水害を

「知る」

近年の風水害

平成 27 年 関東・東北豪雨
平成 29 年 九州北部豪雨
平成 30 年 西日本台風
令和 2 年 熊本豪雨
令和 3 年 鳥取豪雨

大雨時

住んでいる地域の 想定被害を「知る」

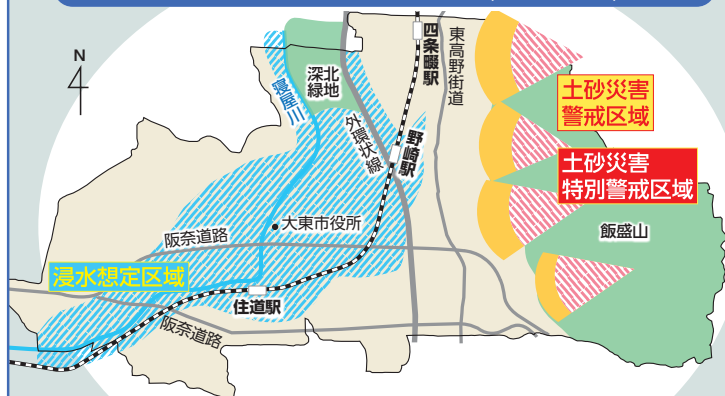
ホームページで、市の水害ハザードマップが見られます。

災害時、住んでいる地域がどの程度浸水するかなど、想定される被害を確認できますので、事前に確認しておきましょう。

詳細は
こちらから
▶▶



水害ハザードマップ(簡略版)



洪水	浸水想定区域	河川が氾濫すると浸水する区域です。
土砂災害	土砂災害警戒区域	土砂災害のおそれがある区域です。
	土砂災害特別警戒区域	著しく土砂災害の危険が生じるおそれがある区域です。

浸水の中を歩くときの 注意点を「知る」

▼ 総合防災マップの P15 に掲載

総合防災マップは、危機管理室
や情報コーナーなどで配布し
ています。また、改訂版を今年
度中に全戸配布する予定です。



総合防災マップ



長靴はぬげること
があるのでなるべく
運動靴にしましよ
う。



水の中の障害物
に注意しましょう。



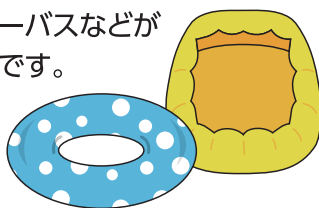
マンホールに気づかず吸い込ま
れてしまう場
合があり、危険
ですので、注意
しましょう。



高齢者や身体
の不自由な人などの
手助けを
しましょう。



幼児は浮き袋や
ベビーバスなどが
便利です。



氾濫による水は汚水が混ざって
いるので、むや
みにさわらな
いようにしま
しょう。



車は約30cmの浸水深で走行困
難になります。

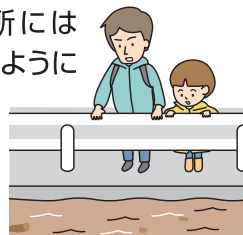


人が歩ける深さの
目安は50cmから
70cmくらいです。

※水の流速によっては歩
けない場合もあります。



危険な場所には
近寄らないよう
にしましょう。



自助・共助の大切さを「知る」

できることなら全ての被災者を救助したいけれど…

～ある消防職員の体験談から～

救助活動を行う消防職員などは、災害トリアージ※に基づき、救助活動を行います。熊本県で発生した大洪水の救助活動にあたった消防職員は「緊急度が高い高齢者の救助に向かっている中、心ない声を浴びせられたことや、また、緊急性が低いとは言え、実際に被災し助けを求めている多くの人々の要請に応えられなかったことがつらかった」と話します。

救助活動を行う中で、全ての被災者を救いたいと思っても限界があることは、厳しくも否定できない現実です。

※災害トリアージ…災害発生時に多数の要救助者が発生した場合、その緊急度に応じて救助の優先度を定めること



次のページからは「備える」をキーワードに、自分でできること、
地域でできることについて考えてみよう。



「備える」

共助

独自の防災計画を作っている地域を紹介します

泉町地区	市の地形の成り立ちを研究した計画
野崎第一地区	ため池や土砂災害を踏まえた計画
寺川住宅地区	地震時に、在宅避難を基本とした計画
灰塚地区	木造住宅の密集や、狭い道が多いことを踏まえた計画



▲ 大人も子どもと一緒に計画づくりをする様子

釜石の奇跡

～なぜ「備える」ことが重要なのか～

東日本大震災の津波で大きな被害を受けた岩手県釜石市。当時、^{うのすまい}鵜住居小学校と釜石東中学校にいた児童と生徒約570人が全員無事に避難できたことは「釜石の奇跡」として今も語り継がれています。鵜住居小学校と釜石東中学校の子どもたちは、毎年5～10時間の防災授業や年に一度の合同訓練を通して、自分や仲間の命を守るために、正しく判断し強い気持ちで行動しなければいけないことを学んでいました。

「釜石の奇跡」は、決して幸運がもたらしたものではなく、防災教育という日頃の備えを、子どもたちが災害時に実践できた結果だと言えます。

遠くの親類より近くの他人！？

現代では、「必要な情報はネットで得られる」「面倒くさい」といった理由から「近所付き合いは不要だ」と感じる人が多いようです。しかし、過去の大災害において、**救助隊が到着するまでの間、多くの人命を救ったのは地域の人々、すなわち「近所の人」**だったことが分かり、近所付き合いの必要性を考え直す人が増えています。

公助

行政も水害への備えを進めています

住道新橋の点検

住道新橋が架かる場所は堤防より低く、ひとたび水位が上昇すると水が市街にあふれてしまいます。そのため、住道新橋には大雨や台風のとくにいち早く職員を配置し、水位上昇時には鉄扉を閉鎖。橋全体を堤防の高さまで上昇させ、川から水があふれないようにしています。



図 危機管理室 ☎ 889・1511

流域調節池

流域調節池は、大雨のときに水路や下水道に流しきれない雨水を一時貯留することにより、周辺地域の浸水被害を軽減するための施設です。市内には大東中央公園（表紙写真）、南郷公園、東諸福公園、朋来公園の地下に設置されています。



▲ 南郷公園の地下調節池

表紙はコレ！

流域調節池イメージ図

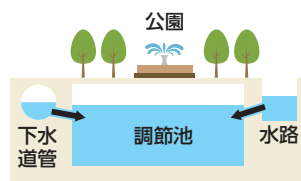


図 寝屋川水系改修工営所 ☎ 06・6962・7664

自助 マイ・タイムラインを作ろう

何をする？

マイ・タイムラインとは台風や大雨など進行型災害が発生したときに「いつ」「何をするのか」を整理した一人ひとりの防災計画です。

自分がとる防災行動を時系列に整理しておくことで、急な判断が迫られる災害時に役立てることが出来ます。

いつ？



夜間や休日だったら？職場にいたら？など、
行動範囲や時間ごとの避難方法についても考えてみよう



▼ 総合防災マップの P32・33 に掲載

日頃からの備え

マイ・タイムラインを作りました

マイ・タイムラインとは、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、自ら考え命を守る避難行動のための、住民一人ひとりの防災行動計画のことです。

災害時に取る行動を家族と話し合っておきましょう。

あなたの住んでいる場所は…

- ☒ 洪水浸水想定区域
☐ 土砂災害警戒区域

☐ 災害の予想がない区域 (※1)

※1 災害の予想がない区域においても、降雨の状況によっては災害が発生する可能性があります。情報収集に努め、自らの判断で避難しましょう。

記入例

家族で避難場所を決めましょう

- ☒ 大都市の指定避難所 (南郷中) ☐ 自宅の上階 ()
☐ 親戚・知人宅 () ☐ 頑丈な建物 ()

避難のタイミングを決めましょう 警戒レベル4までに必ず避難しましょう

家族や近所で避難に時間がかかる人 (高齢者・障害者・乳幼児など) が

- ☒ いる → レベル3で避難 ☐ いない → レベル4で避難

危険度		低				高	
警戒レベル		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	
							
避難情報等		早期注意情報 気象庁が発表	大雨・洪水注意報など 気象庁が発表	高齢者等避難 (※2) 大都市が発令	避難指示 大都市が発令	緊急安全確保 (※3) 大都市が発令	
防災気象情報				氾濫警戒情報、洪水警報 など	氾濫危険情報、土砂災害警戒情報 など	氾濫発生情報、大雨特別警報 など	
住民の皆さんが取るべき行動		災害への心構えを高めましょう。 自らの避難行動を確認しましょう。		危険な場所から 高齢者等は避難しましょう。	危険な場所から 全員避難しましょう。	直ちに安全を確保しましょう。 余の危険がある状況です。	
① 必要な行動にチェックをつけましょう。 ② その行動を取る人をカッコの中に書き込みましょう。 ③ その他に必要な行動があれば、空欄に書き足してください。 例 ☒ 天気予報を確認する (父) ☒ 家を点検する (母)		☒ 天気予報を確認する (全員) ☒ 家を点検する (玄関、ベランダ) ☒ 外にある植木鉢などを家の中に入ろう ☒ 非常持出品や家庭内備蓄品を確認する (シューズボックス内) ☒ 常備薬を確認する (特に父の薬) ☒ 避難手段を確認する (徒歩) ☒ 携帯電話を充電する ☒ 家族の行動を確認する (グループLINE) ☒ 親戚や近所の人に連絡する (おばあちゃん) ☐ ☐ ☐		☒ テレビやラジオをつけた状態にする ☒ 家族と連絡を取り合う (グループLINE) ☒ 避難所の開設状況を確認する (ホームページ) ☒ 非常持出品を準備する ☒ 動きやすい服装に着替える (長靴よりスニーカー) ☒ 戸締りをする (2階も) ☒ ガスの元栓を閉める ☒ プレーカーを落とす (トイレの中) ☒ 隣近所に声を掛け合う (〇〇さん) ☒ レベル3で避難する ☐ レベル4で避難する ☐		☐ 家の上階へ移動する ☐ 近くの高い建物へ移動する ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	

※2 高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

※3 大都市が災害のすべての状況を把握できない場合もあることから、必ず発令されるものではありません。

各地で毎年のように大規模な水害が発生しています。「自分の命も、家族の命も自ら守る」という意識を持つことが重要です。次のページのマイ・タイムラインをぜひ活用して、オリジナルの防災計画を立ててみてください。

図 危機管理室 ☎ 889・1511